

こんにちは、英語・国際理解教育部です。今回第2号は、先月上旬に実施された「令和3年度・基金留学」の報告です。

British Hills



第22回・基金留学報告

仙台高校基金留学は、仙台高校教育振興会の援助をいただいて実施されているものです。コロナ禍で2年間海外への基金留学は中止となっていましたが、昨年度は基金留学史上初めての国内での実施となり、3月4日（金）～6日（日）の3日間、1,2年生12名が、福島県天栄村にある「パスポートのいらぬ英国」の異名を持つ「ブリティッシュヒルズ」で語学研修を受けながら、英国留学の疑似体験をしました。そこは、建物も宿泊棟も全て、小説（映画）「ハリーポッター」に出てくるホグワーツ魔法魔術学校さ



到着後、*マナーハウスの前で

*昔の貴族や領主が所有する館をホテルに改装した宿泊施設

ながらの英国風な造りで、日本人を含む施設のスタッフとのやりとりも全て英語というこだわりようでした。そのような異国情緒たっぷりの環境の中で、生徒たちはネイティブスピーカーによる、90分間の英語のレッスンを7回、高い集中力と向上心を持って臨みました。最初は受け身の姿勢を崩せず、自分から積極的になれなかった彼らでしたが、2日目からは各自が徐々に自分の殻を破り始め、授業でも、1日目は無言だった講師の先生の質問等に必ず誰かが英語で反応するようになり、最終日には講師の先生方と普通に会話できるくらいになりました。その時の1人1人の自信に満ちた生徒たちの顔を、今でも忘れることができません。今回の参加生徒たちが、この貴重で素晴らしい経験を、様々な場面でいかしながら還元していくことを期待します。



宿泊棟

参加生徒の感想（全て3月の時点での学年です）

- ①コミュニケーションをとる、そのことが英語の学習には一番大切なことなのだと痛感しました。また、1人ではつくりだすことができないものがあり、協力することで新たな発見や今まで思いつきもしなかった自分の考えが生まれるということ、この研修を通して感じる事ができました。3日間という短い時間で、こんなにも多くの経験をしたのは初めてで、研修旅行とも全く違った体験ができました。私の目標でもあった「新しいことに挑戦する」ことに加え、今まで表に出してこなかった積極性、協調性などの自分の可能性に気づくことができた3日間だったと思います。不安も緊張も、新たな挑戦をするときに付きまとう感情も、自分の成長のために自然なものだと実感することができ、自分でも気づくことができるくらいのスピードで成長を感じられたこの基金留学は、英語を学ぶだけではない、人として、社会人として大切なことを学ぶ機会となりました。このような制度がある仙台高校に入学できて本当に良かったです。この経験を今度は他の誰かに伝えることができるように努力を続けます。（2年）
- ②今回の私の目標は、英語に慣れることでした。グローバル化が進む世の中で、英語でのコミュニケーションは不可欠だと思いましたが、内気な私が英語で話すことができるかどうか、最初は心配でした。この留学を通して、異なる文化の魅力や、英語で話すことの楽しさを学び、特に、会話をする大切さと楽しさを学びました。異なる言語で会話することは大きな壁だと思っていましたが、完璧な英語で話すことよりも、分かり合うまでに、たくさんの過程を乗り越えようとする姿勢が大切であると気づきました。学んだことを、自分のものだけにするのではなく、学校の友達や家族、たくさんの人々と共有して、これからの生活にとり入れていきたいです。私はこの基金留学で、異なる文化に触れ文化の違いや魅力を見つけ、少し自分に自信を持つことができました。この研修に参加することができて本当に良かったです。大きく成長することができました。（1年）